（第三種郵便物認可）

顔

「吉田のうどんマップ」全店を制覇した

ピーター・マーティンさん

独特の食感 米国にも紹介

Peter Martinさん
米国ワシントン州出身。
西桂町小沼在住。34歳。

富士吉田市観光協会が発行する「吉田のうどんマップ」に掲載された全六十三店舗（一月当時掲載分）を回った。外国人で初めて全店制覇のつわものに名を連ね、同協会から「吉田のうどん大使」に任命された。

「何よりも、歯ごたえがあるところがいい」。来日前にアジア系レストランで食べたことがあるめんとは、ひと味もふた味も違う食感のとりこになった。

二〇〇三年八月に来日し、ALT（外国語指導助手）として西桂中に勤務。同僚教師に連れられて入った店で初めて味わった。うどんマップの存在を知り、昨年一月に全店制覇を決意。土日を中心に約一年間かけ全店に足を運んだ。

米国の家族や友人に日本の食文化を伝えようと、ホームページを作成。各店を訪ねた様子を写真付きで紹介し、感想をまとめている。

美しい風景写真を撮るのが趣味。来日後、富士山や富士五湖など富士北ろく地域で撮影した写真は約四千枚にも上る。「富士山周辺は自然に恵まれたところ。地元のシアトルにも森や山があるが、ここは米国とは違った魅力がたくさんある」

三年にわたる西桂中での勤務を終え、八月には米国に戻る。「西桂中の生徒たちはとても元気が良く、毎日が楽しかった。放課後にサッカーや野球などの部活動に参加させてもらったことなど、良い思い出がいっぱい」。帰国後は科学教師として、ワシントン州エベレットの中学に勤務する予定だ。

海の向こうでは吉田のうどんが簡単に食べられなくなるが「うどんの作り方を勉強して、米国でも味わいたい」と言う。「上手に作れるようになったら、友人や家族に試食してもらうつもり」。うどん大使としての〝使命〟も忘れない。

〈保阪 有〉

つくる時代が

◇私は一九四五年生まれで、団塊の世代より少し早く生まれているが、間もなはやった。

◇昭和二十二年「団塊の世代」のピークに生まれた。経済も発展していった。安保闘争の余波を受けての学園紛争にも参加し、自分の

◇遊びの合間には駄菓子屋で買い食いした。紙芝居った。こうして疾風怒涛（どとう）のような前半生を過ごした団塊の世代にもいよ

ち枝片す人なき畑に
渡辺せつ子

三月の半ばに名残りの雪が